

集中治療について

集中治療室副部長 一般内科副部長

上田忠弘医師

生命の危機にある重症患者さんを集中的に治療する集中治療科。副部長である上田医師は救急科専門医でもありません。生死を分ける医療現場で活躍する上田医師に話を聞きました。



日本内科学会認定内科医
日本救急医学会救急科専門医
日本DMAT 隊員

集中治療とは

さまざまな臓器不全や多臓器不全を発生している重症患者さんの全身管理ケアを行い、生命を救う専門分野です。集中治療室（ICU）で患者さんの全身を24時間の観察のもとで先端技術を駆使して回復させ、1日も早く一般病棟に、そして退院へと導かなければなりません。近年の医療技術や薬剤などの発展により、集中治療は大きく変化しています。が、重要なことは、様々な診療科からICUに入室する患者さんに向き合うための専門的なトレーニングを受けた専門医とスタッフが常駐することです。集中治療の専門的トレーニングとは、初見の患者さんのデータと現状を正確に把握・処置し、全身管理と合併症の予防、加えてICU退室後を見据えた機能サポートを実践、症例の研究を行うことです。

当科では私を含む専門医が2人と専門に携わる看護師常駐しており、私たちが中心になって患者さんの主治医、さらには

診療科を超えた質の高いチーム医療を行っています。ちなみに、私は救急医療での専門医で、どちらも緊急を要する患者さんを診ます。救急医は救急外来にけがや疾患で運び込まれる患者さんを診ますが、集中治療医は集中治療室に運び込まれた重症患者さんの管理が主な仕事になります。救急外来で処置し、そのまま集中治療室で引き継ぎ、管理することも多くあります。共通するのは助ける命を最大にすること。そのために全力で治療に当たります。

私が経験した出来事

私は4年前に集中治療を専門的に学ぼうと思い、京都医療センターに移り、一般内科と集中治療室で3年間勤めました。そんな中で、大規模な火災が発生し、重度の熱傷患者3人が搬送されました。私はその日は午前中、一般内科外来で診療中で、火災発生のごとは全く知りませんでした。突然、当時の上司に「至急、集中治療室に行ってほしい」と言われ外来を放り出

最後に

してICUへ走りました。当然、ICUは騒然としており、様々な担当の先生方が集まり、誰もが時間を忘れて患者さんの治療にあたりました。結果的には、熱傷の専門医がいなくてもあり、「私たちが3人も助けることができない」と判断し、夕方に2人を他院に搬送。まさに救急救命医療の「助ける命を最大限にする」判断でした。

集中治療は多くの経験値がものを言います。身体は自分で治癒しようとする力を持っていきます。重症患者さんでも、検査値の微細な変化で臓器が蘇えろうとしていることが解ります。しかし、ともすればその治癒力を邪魔することがあります。私は患者さんの生命力を邪魔せず、サポートしたいと思っています。そして、いかなる時も諦めない。患者さんの状態がどんなに悪い場合であっても、自分が介入できるタイミングを探り、尊い命を救いたいと思っています。